

## 公益社団法人日本新生児成育医学会 2021年度 定時社員総会 議事録

日 時：2021年12月13日（月）16：00～18：00

会 場：日本新生児成育医学会事務局 第1会議室

出席者：159名

委任状・書面評決提出者：63名

### 議 事

#### 1. 総会成立

本法人の総会における議決権者である代議員249名に対し、出席者が議決委任者および書面評決者を含めて222名となり、定款第26条および同第27条2項に基づき、本総会の成立に必要な過半数の定足数に達したため、早川昌弘理事長より総会の成立が報告された。

#### 2. 議事録署名人の選出

定款28条2項に基づき、代議員の落合正行先生、難波文彦先生が議事録署名人に選出された。

#### 3. 理事長挨拶

早川理事長から、開会挨拶に際して2021年度の各種委員会活動を振り返る報告があった。

#### 4. 理事長報告

##### 1) 韓国・台湾・日本 3か国の新生児学会交流の件

- ・2021年4月11日に開催された台湾新生児学会で森岡理事が「with コロナ時代の新生児ケアについて」をテーマにリモートで講演を行った。
- ・延期されていたThe 4th Taiwan-Korea-Japan Joint Congress on Neonatologyは2022年3月19日（土）・20日（日）に台湾の台中で開催予定である。

##### 2) 米国小児科関連学会（Pediatric Academic Society（PAS）Meeting）2022年度学術集会における発表者推薦の件

本学会から推薦した鈴木紗記子先生（名古屋大学医学部附属病院小児科）が受賞された。

##### 3) 文献許諾使用料の件

- ・メテオ社の2020年度分は合計5,412円で、5月31日に振り込まれた。
- ・医学中央雑誌より、許諾抄録利用料金16,720円の入金があった。

##### 4) 日本新生児成育医学会編『新生児学テキスト』印税の件

新生児学テキストの印税999,900円が2月1日に学会の口座に振り込まれた。

##### 5) ロクロニウム

ベクロニウム臭化物の製造・発売中止が決定したため、今後、ロクロニウム臭化物を使用することとなる。しかし、日本麻酔科学会から発刊されている「麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン第3版」には「特に乳幼児における持続投与法は推奨されない」と明記されているため、11月4日に関連学会とともにガイドラインの文言変更に関する要望書を日本麻酔科学会へ提出した。

##### 6) 第1回ウェビナー開催の件

2021年7月26日（月）18：00～19：00に開催した。事前参加申し込み者は320名で、当日の参加者は最大140名と半数以上少なくなったがアンケート結果での満足度は非常に高かった。当日参加されなかった先生にも見ていただけるよう動画とテキストを会員専用ページに掲載している。

##### 7) 寄付の件

寄付募集に関する趣意書を作成し、関連企業に理事会メンバーより働きかけを行った。株式会社アローズ、

株式会社メトランよりご寄付をいただいた。

## 5. 庶務報告

- 1) 2021年10月1日時点の会員数は2,523名（男性1,639名・女性884名・非医師90名）で、  
 昨年は2,639名であり、購読会員は21件で昨年は24件であったことが報告された。  
 会員数の減少傾向について大木 茂代議員より、日本小児科学会や分科会の会員数の動向や小児・新生児領域全体にみられる傾向なのか質問があり、調査する旨回答した。理事長からはコロナウイルス感染症拡大以前より減少傾向は認められており、本学会の魅力を発出し、会員増に努めるとの総括があった。
- 2) 以下の先生方が逝去されたことが報告され、黙とうが捧げられた。  
 井村 總一 先生, 松尾 保 先生（名誉会員）  
 井上賢太郎 先生, 鳥居 昭三 先生（功労会員）

## 6. 第66回学術集会の件（長谷川会長）

2022年11月24日（木）～26日（土）にパシフィコ横浜で現地開催予定であること、会長の所属施設である東京女子医科大学東医療センターが2022年1月1日に足立区に移転され、施設名が「東京女子医科大学附属足立医療センター」に変更になることが報告された。

## 7. 第67回学術集会の件（細野会長）

2023年11月2日（木）～4日（土）にパシフィコ横浜で開催予定であることが報告された。

## 8. 協議事項

- 1) 第1号議案：2021年9月期（2020年10月1日～2021年9月30日）事業報告及び決算書類承認の件  
 経常収益は71,725,469円、経常費用は54,416,031円、当期一般正味財産増減額は17,309,438円となった。学会誌の発行、NICU入門セミナーの開催、第65回学術集会を開催し、大幅な黒字となったが、要因にCOVID-19の影響があり、これは一時的な状況として今後も収入増・支出減の努力を続ける必要があることが報告された。中村・与田監事から監査報告があり、賛成1/2以上で承認可決された。
- 2) 第2号議案：2022年9月期（2021年10月1日～2022年9月30日）事業計画及び収支予算の件  
 経常収益は29,945,900円、経常費用は24,180,000円の予算案が提出された。来期は学会誌の刊行、NICU入門セミナー・教育セミナーの開催を予定していることが報告され、賛成1/2以上で承認可決された。
- 3) 第3号議案：第68回学術集会 会長選任の件  
 中村友彦監事が第68回学術集会会長に推薦され、賛成1/2以上で承認可決された。中村先生より挨拶があり、2024年11月8日（金）～2024年11月10日（日）に長野県松本市の「ホテルブエナビスタ」で開催予定であることが報告された。
- 4) 第4号議案：新名誉・新功労会員推薦に関する件  
 下記4名を名誉会員・功労会員に推薦する件について、賛成1/2以上で承認可決された。  
 新名誉会員 田村正徳  
 新功労会員 猪谷泰史 三石知左子 山本初実  
 田村正徳先生、三石知左子先生から挨拶があった。

## 9. 各種委員会報告

- 1) 社会保険委員会（和田雅樹委員長 代・早川理事長）
  1. 令和4年度診療報酬改定に向けた提案について  
 〈本学会の提案項目〉
    - ・出生前ハイリスク新生児カウンセリング加算
 〈共同提案項目（主提案学会）〉
    - ・出生後ハイリスク新生児カウンセリング加算（日本周産期・新生児医学会）
    - ・アルブミン非結合ビリルビンの測定期間延長（日本周産期・新生児医学会）

- 小児静脈麻酔加算（日本小児栄養消化器肝臓学会）
  - 遺伝学的検査（日本人類遺伝学会）
  - オクトレオチド間歇注入ポンプ加算（日本小児内分泌学会）
  - コレスタノール測定（日本神経学会）
  - 小児（乳児）在宅ハイフローセラピー加算（日本小児呼吸器学会）
  - 先天性心疾患に対する低酸素（窒素吸入）療法（日本小児循環器学会）
2. 現在の診療報酬上の問題点として以下を協議中である
- 慢性肺疾患を合併した児に対する新生児特定集中治療室管理料の延長
  - 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準（患者要件：開胸・開頭・開腹手術数が年間6件以上）への内視鏡手術の追加要望（日本小児外科学会連携）
3. 継続検討項目について
- 高度NICU加算に関して検討中である。
  - NO吸入療法の適応期間の延長について検討中：薬剤としてのNOの適応拡大が求められる。
  - 新生児仮死の適応条件：現在のApgarスコアを基にした適応基準から、NCPRに則った基準への変更が妥当かどうか検討中である。
- 2) 倫理委員会（福原委員長）
1. 第65回学術集会 倫理委員会主催プログラムにてシンポジウム「倫理コンサルテーションについて理解しよう」を開催した。リアルタイム参加者は242名、オンデマンドは発表内容ごとにそれぞれ300名前後が視聴された。学会終了後のアンケート調査に回答があった214名中122名（57%）が視聴しており、このうち82%が有益であったと回答された。
2. 第66回学術集会における倫理委員会の企画について検討協議した。
- ワークショップの企画（公開ワークショップ形式）については倫理的な課題をテーマにした模擬事例を作成し、これについてパネリストとなる多職種および家族の方にご意見をいただきながら意見を出し合うようなシンポジウムを計画しており、予後不良であることを家族が受け入れられないケースを念頭に作成予定である。これまで行ってきた大人数でのグループワーク方式については、継続したいという希望が多かったが、来年度が対面のできるかどうか不確定な部分もあるため断念した。
  - 教育講演（日本小児科学会専門医単位取得の申請を希望）  
小児救急・PICUなど新生児と異なる立場の先生に、予後不良のお子さんについてどのように対応されているか伺いする予定である。
- 3) 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）
- 2020年5月14日より「新型コロナウイルス感染症の母親から出生した新生児の出生後早期の管理経験の報告の募集と情報共有」を行っている。
  - 医療の質向上委員会のサーベイランス事業の中で「新型コロナウイルス感染症の母親から出生した新生児」のレジストリを2020年6月12日より開始している。詳細のアンケートを再度実施する。
  - 日本小児呼吸器学会と連携し「小児RSウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン2021」を作成し、2021年6月22日に発刊した。
  - 「早産児への抗菌薬使用方針ならびに各施設の多剤耐性菌感染対策のアンケート調査」と「NICUにおけるロタウイルスワクチンの定期化への対応に関するアンケート」は、通信理事会の承認を得て調査を行い、現在集計中である。
  - 「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）第5波：医療体制のひっ迫に際しての妊婦のコロナ感染症に対する対応のお願い（続報）」を作成し、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本新生児成育医学会の連名で2021年8月10日に各学会ホームページに公開した。

- 「抗RSウイルスモノクローナル抗体製剤の使用に関する要望書」を作成し、理事会の承認を得て、日本新生児成育医学会、日本小児呼吸器学会、日本小児循環器学会の3学会の連名で2021年8月26日に厚労省に提出した。
  - 「ろ紙を用いた新生児尿中サイトメガロウイルス核酸スクリーニング検査の陽性判定時の対応について」を作成し、通信理事会の承認を得て、2021年10月26日に学会ホームページに公開した。
  - 現在、本学会から公表している「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について」の改訂作業を行っている。
- 4) 広報委員会（水野委員長）
- ツイッターを開設した。  
公式アカウント：新生児科医師対象（研究会、学術集会など）・一般向け（医療機器が必要なこどものための災害対策マニュアルなど）・医療従事者向けに発信している。フォロワー数は3,005（12月1日現在）。  
広報部アカウント：ワクチン、母乳バンク、気管カニューレ、食事などを発信。フォロワー数は1,509（12月1日現在）。
  - 学会ホームページリニューアル：「会員・医療関係の皆様へ」「医学生・研修医の皆様へ」「一般の皆様へ」の3つにタブ分けし、見やすくする。また、内容を充実させ、スマホ対応とすることで本学会のホームページへの訪問者数を増やす。  
ホームページの閲覧が多い内容は学会誌電子ジャーナル版掲載ページならびに「新型コロナウイルス感染症の母親から出生した新生児管理」が挙げられた。  
10月は会員専用ページの訪問者数が増加したが、引き続き学会員に有益な研究会・セミナー・学会などの紹介に加えて、ホームページの内容の充実に努めたい。  
最終的な目的は当学会の会員増加ならびに新生児医療をサブスペシャリティとして選択してもらえるようにすることである。
- 5) 医療の標準化委員会（諫山委員長）
- 委員会を3回開催し、委員会の活動方針を決定した。本委員会の目的は、今後、新生児医療に関する科学的根拠に基づく診療ガイドラインを継続的に作成していける体制を構築し、ガイドラインを整備していくことである。そのために、全国から有志の医師・看護師・その他の医療者・患者家族を広く募集して、皆で系統的レビューや診療ガイドラインの作成方法を学びながら、ガイドライン作成を目指すこととなった。
  - 公募の結果、新生児医療の科学的根拠に基づく診療ガイドライン作成グループ（JEBNeo：Japan Evidence Based Neonatology）に209名から応募があり、全員採用した。新生児科医138人（66%）、小児科医32人（15%）、看護師21人（15%）、助産師3人、薬剤師3人、臨床工学技士2人、患者家族10人（5%）と様々な職種の方が集まった。
  - JEBNeoの全体会議を9月2日、11月24日に行い、診療ガイドラインの作成方法に関して勉強を進めているところである。今後、毎月一回の全体会議を行いながら、慢性肺疾患の診療ガイドライン、動脈管開存症の診療ガイドラインの作成を進めていく予定である。
- 6) 医療安全委員会（大曾根委員長）
- 「サーファクテン<sup>®</sup> 気管注入用120mg専用ディスプレイ採液針Pの使い方」と題する資材（下敷き）の監修  
田辺三菱製薬（株）により血管内誤注入防止および針刺し事故防止を目的とする上記採液針が作成された。その採液針を希望施設へ配布するにあたり作成された使用手順を記載した資材（下敷き）につき監修を行った。
  - 厚生科研による「研修・保守点検の指針」レビュー  
厚生労働行政推進調査事業補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「医療機器の保守点検指針の作成等

に関する研究」において、医療機関における医療機器の研修および保守点検のための指針のうち、「閉鎖式保育器」に関する記述に対しレビューを行った。

• 今後の検討事項

ロキソニウム（筋弛緩薬）の小児への持続投与法など、現時点では主要学会のガイドラインでは推奨されていないが、実際臨床で施行されている医療行為について、今後検討する。

7) 学会誌編集委員会（河井委員長）

• 原著論文の応募および査読状況について報告があった。

8) 診療委員会（芳本委員長）

• 日本小児科学会小児慢性疾患委員会による小児慢性特定疾患の疾患概要ならびに診断の手引き改定の協力について、「先天性肺胞蛋白症（遺伝子異常が原因の間質性肺疾患を含む。）」と「慢性肺疾患」を長理事に担当いただいた。

• 日本小児神経学会が担当する「先天性ヘルペス感染症」「先天性風疹症候群」「先天性サイトメガロウイルス感染症」「先天性トキソプラズマ感染症」について、感染対策予防接種委員会 森岡委員長から学会として参考意見を提出した。

• 医療提供体制の充実のための検討として COVID-19 対応などあらたな課題への対応について検討予定である。

9) 教育委員会（中西委員長）

• 2021年8月28日（土）第7回医学生・研修医向け NICU 入門セミナーを、2021年11月27日（土）、28（日）に第24回教育セミナーを WEB 開催した。オンデマンド講義、ライブ講義、施設紹介、小グループディスカッションなどを企画し、期待に応えられるプログラムとなった。

WEB セミナーのノウハウの蓄積もでき、来年度も WEB システムを活用しつつ、現地開催も検討していく予定である。

• 第66回学術集会で教育委員会主催プログラムの開催を申請している。若手医師対象に臨床研究のノウハウに関する企画を予定している（詳細未定）。

10) 学術委員会（長谷川委員長）

厳正な選考の結果、以下のごとく決定した。

• 日本新生児育成医学会学術奨励賞：玉井 圭先生（岡山医療センター新生児科）

論文名：Associations of Birth Weight for Gestational Age with Child Health and Neurodevelopment among Term Infants : A Nationwide Japanese Population-Based Study

掲載雑誌：The Journal of Pediatrics 2020 ; 226 : 135-141.

• 日本新生児育成医学会学会論文賞：伊藤誠人先生（秋田大学附属病院小児科）

「アンケートから見た日本国内における新生児慢性肺疾患診断の現状」

学会誌 32 巻第 1 号 137-143 頁掲載

• 米国小児科学会 2022 年度学術集会における発表者推薦：鈴木紗記子先生（名古屋大学医学部附属病院小児科）

11) 学会将来構想委員会（高橋委員長）

• 第1回委員会を6月4日に診療委員会との合同で開催し、第2回委員会を10月7日にオンラインで開催した。

• 新生児医療連絡会と共同で行った新生児医療提供体制・新生児医勤務状況の全国調査について、第65回日本新生児育成医学会で講演を行い、講演録を学会誌に掲載した。医学界新聞にも掲載され、日本小児科学会から日本専門医機構への要望や厚生労働省の検討会でも利用されている。今後、日本小児科学会雑誌に分科会からの総説としても掲載される予定である。その解析費用について、当初に予定より費用が増加

したため、その経緯について理事会で報告をした。

- 6月24日の第2回英文誌WG委員会の結果を受けて、英文誌を含めた学会の将来構想の全体像を第2回委員会で検討した。学術集会、学会ホームページなどの英語化は推進すべきだが、英文誌については和文誌でも投稿が減っている現状では発刊は難しいのではないかとされた。また制度面として、認定フォローアップ医制度の設立に多くの賛同と期待が述べられた。将来構想には次世代を交えて議論することが重要とされ、今後、次世代の会員を含めて委員会を行うこととした。
- 「日本新生児成育医学会 認定新生児成育フォローアップ医（仮称）制度」について、委員長の高橋と河野理事が理事会提案を行った。ワーキンググループ（WG）を立ち上げて、設立に向けて検討を行うことが承認され、7月3日に第1回WG会議を、9月25日に第2回WG会議を行った。現在、WGメンバーが理事会承認され、規約、到達目標などの検討を行っている。

#### 12) 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

- 第65回学術集会で、「みんなが働き続けられるNICUをめざして」のワークショップを開催した。NICUの勤務体制と女性医師の働き方に関する発表と議論した内容は学会誌に報告する。
- 女性医師・若手医師の学会活動状況と活躍推進について討議した。理事会の承認の上、第66回学術集会上では「学術集会での女性の座長の割合を、一般演題、一般演題以外ともに少なくとも20%以上にする」との要望書を学術集会会長に提出する。
- 「女性医師の学会活動の推進」をテーマとしたWSの開催を次回学術集会上で予定している。

#### 13) 災害対策委員会（茨委員長）

第13回四者協小児周産期災害医療対策委員会に2021年11月12日に参加した（WEB形式）。四者間で災害時小児周産期リエゾンの働きや協力を協議した。

#### 14) 薬事委員会（飛弾委員長）

- 厚労省から日本小児科学会（および分科会）に定期的に連絡される、供給停止予定品目（医薬品、医療機器、体外診断用医薬品など）への疑義照会について対応している。
- 厚労省から日本小児科学会（および分科会）に依頼があった「医療上必要不可欠であって、汎用され安定確保が求められる医薬品」の追加調査に協力した。
- 魚油由来静注用脂肪乳剤 Omegaven<sup>®</sup> の国内での早期採用についての要望書を学会主体として提出すべきという提案を受け、準備を進めている。

#### 15) 医療の質向上委員会（長委員長）

##### 1. 有疾患（病態）サーベイランス事業

- 新規対象疾患：「軟骨低形成症」
- 調査中の疾患：「新生児偽性低アルドステロン症」「MIRAGE 症候群および MIRAGE 症候群関連疾患」「新型コロナウイルス感染症の母体から出生した児」
- 調査終了疾患：「サイトメガロウイルス（CMV）関連敗血症様症候群」

##### 2. フォローアップ事業

- 「超低出生体重児の成人期までの心身健康問題把握調査」：調査済み
- 「低出生体重児の成長曲線作成に関する研究」：準備中

##### 3. 小児在宅医療に関わる事業

在宅移行に関する調査を立案予定である。